

SAFe® for Teams

アジャイルリリーストレインのためにチームアジリティを確立する

SAFe® Practitioner (SP) となることで、アジャイルリリーストレイン (ART) のハイパフォーマンスチームのメンバーとしてのスキルを構築し、他のチームと効果的にコラボレーションする方法を学習します。

この2日間のコースでは、ARTの詳細と、ARTがバリューをデリバリーする方法について学習します。また、スクラム、カンバン、エクストリームプログラミング (XP) を使用して効果的に役割を果たすために何ができるかについて理解を深めます。ストーリーを作成してフィーチャーを細分化する方法、イテレーションを計画して実行する方法、PI内でケイデンスに従い協力して計画を立てる方法も学習します。最後に、継続的デリバリーパイプラインとDevOpsの文化について、他のチームと効果的に統合する方法、またトレインを継続的に改善するために必要なことを学びます。

SAFe® Practitioner (SP) 6.0認定試験付き



SAFe® for Teams

SAFe® Practitioner (SP) 6.0認定試験付き



対象者

このコースの対象者は以下のとおりです。

- リーンとアジャイルを大規模に適用するチームメンバー
- ローンチ準備中のアジャイルリリーストレインのすべてのメンバー

推奨クラスサイズとオンサイトトレーニングオプション

SAFe for Teamsは、実際の環境で行われるオンサイトクラスが最も効果的です。

推奨される最小のクラスサイズは、ART内のチームメンバー全員です。最大のクラスサイズは150人です。

このコースを実施できるのは、SAFe for Teamsの認定を持つSAFe®プラクティスコンサルタント (SPC) です。

学習内容

SAFe® Practitioner (SP) の役割を果たすには、以下の能力が求められます。

- SAFeを適用して企業のリーンアジャイルな開発を拡大する
- アジャイルリリーストレイン上のチームとその役割を把握する
- トレイン上のすべてのチーム、その役割、チーム間の依存関係を把握する
- イテレーションを計画および実行してバリューのデモを実施する
- PIプランニングを実行する
- トレインの他のチームと統合および協力する

取り扱いテーマ

- Scaled Agile Framework®の概要を紹介する
- アジャイルチームを編成する
- イテレーションを計画して実行する
- プランニングインターバル (PI) を実行する



Everyone hearing the same message from the same trainers at the same time was a huge enabler for alignment and a 'one-team' culture.” (同じ講師による同じメッセージを全員が同時に聞いたことが、ベクトル合わせと「ワンチーム」の文化を実現できた大きな要因でした)

— Em Cambell-Pretty氏, 著者、『Tribal Unity』



前提条件

このコースは、経験の有無にかかわらず、どなたでも参加可能です。ただし、SAFe® Practitioner (SP) 6.0認定試験を受験する予定がある場合、以下の受講要件を満たしていることをお勧めします。

- アジャイルのコンセプトと原則に習熟
- スクラム、カンバン、XPに対する関心
- ソフトウェアおよびハードウェア開発プロセスの実用的知識



提供されるもの

クラスへの受講登録により以下のものが提供されます。

- 受講者向けワークブック
- SAFe® Practitioner (SP) 6.0 認定試験の準備資料と受験資格
- SAFe Studioの1年間のメンバーシップ
- コースの修了証明書

受講者は、受験資格を得るために2日間のコースを2日とも受講する必要があります。

Professional Development Unit (PDU) とScrum Education Unit (SEU)



- 受講者は、プロジェクトマネジメント協会 (PMI) の提供するPMP、PgMP、PMI-ACPの認定取得に向けた継続教育要件を満たすために、15単位のPDUをPMIに申請可能
- 受講者は、Scrum Allianceを通じたCSPの取得または更新に向けて、カテゴリCのSEUを申請可能



コースの受講登録はこちら

SAFe®カリキュラム

幅広い内容を扱い、進化を続けるScaled Agileのカリキュラムは、SAFeの実装を成功させる上での基礎であり、トランスフォーメーション全体の要となります。世界クラスのコースウェアの豊富なポートフォリオは、組織がビジネスの成果を引き出し、チームを維持し、新しい才能を引き付けるのに役立ちます。そして、デマンドの高い認定は、個人がSAFe組織内で重要な役割を果たし、フレームワークにおける実践、コンサルティング、または他者へのトレーニングを通じてキャリアを進展させるのに役立ちます。



SAFeの認定試験付きトレーニングコース一覧

- **Implementing SAFe®**
SAFe® Practice Consultant (SPC) 6.0認定試験付き
- **SAFe® DevOps**
SAFe® DevOps Practitioner (SDP) 6.0認定試験付き
- **Leading SAFe®**
SAFe® Agilist (SA) 6.0認定試験付き
- **SAFe® for Government**
SAFe® Government Practitioner (SGP) 5.0認定試験付き
- **SAFe® for Teams**
SAFe® Practitioner (SP) 6.0認定試験付き
- **Agile Software Engineering**
SAFe® Agile Software Engineer (ASE) 5.0認定試験付き
- **SAFe® Scrum Master**
SAFe® Scrum Master (SSM) 6.0認定試験付き
- **SAFe® for Architects**
SAFe® Architect (ARCH) 6.0認定試験付き
- **SAFe® Advanced Scrum Master**
SAFe® Advanced Scrum Master (SASM) 6.0認定試験付き
- **Lean Portfolio Management**
SAFe® Lean Portfolio Manager (LPM) 6.0認定試験付き
- **SAFe® Release Train Engineer**
SAFe® Release Train Engineer (RTE) 6.0認定試験付き
- **Agile Product Management**
SAFe® Agile Product Manager (APM) 6.0認定試験付き
- **SAFe® Product Owner/Product Manager**
SAFe® Product Owner/Product Manager (POPM) 6.0認定試験付き

→ SAFEキャリアの道のりはここから始まります
scaledagile.com/calendar

Work Differently.
Build the Future.

